

緑 化 樹 木 の 情 報 誌

緑 化 通 信

2026
8月25日
(年6回25日発行)
第518号



発行所

一般社団法人 日本植木協会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-4-22 三沖ビル3階
TEL.(03)3586-7361 FAX.(03)3586-7577
URL: https://www.uekior.jp/ E-mail: honbu@uekior.jp
購読希望の方は上記宛へお申込み下さい。年間購読料 5,000円



環境に配慮するため
FSC®森林認証紙を
使用しています。

謹んで令和8年熊本地震の お見舞いを申し上げます。

令和8年熊本地震により、被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。一日も早く安全と平穏な日常が戻りますよう、皆さまのご健康と復興をお祈りいたします。

一般社団法人日本植木協会 会長 生駒 順
会員一同



講師からは、かつて新炭

横浜市金沢区の「横浜自然観察の森」と「金沢自然公園」で6月19日、都市緑地の維持管理をテーマにした植生スキルアップセミナーが開催された。当日は講師として中村幸人先生が植生管理士を、鈴木伸一先生が植生アドバイザー受講生を、西野文貴先生と小室武利先生が植生セミナー初参加者を中心に案内役を務め、現在進行形で進む「特定外来種」「ナラ枯れ病」などの被害や、森の主役が落葉広葉樹から常緑広葉樹へと移り変わる「遷移」の現状を観察。都市の緑地における「生物多様性の質の変化」について深い議論が交わされた。また、金沢自然公園では（公社）横浜市緑の協会の中村明世氏から公園内の維持管理や植栽計画および「横浜市緑の基本計画」などについて説明を頂いた。

参加者たちは、タイワンリスの食害や、ナラ枯れによって開いた林床（森の地



清瀧 陽平
(キョトウキナシーセリー(大分県))

植生スキルアップセミナー

植生委員会



足立美術館にて集合写真



(寅巳園 故加藤一巳さんの遺作の作庭 (足立美術館にて))



寅巳園園芸のエスバリエ

鳥取・島根研修に参加して (原点回帰の研修)

辰巳 広之
(植木広園(兵庫県))

庭園樹部会だより
数年ぶりに、令和8年5月26日、27日の2日間、庭園樹部会の鳥取・島根研修会に復帰させていただき、米子研修に参加させていただきました。目的として、うしろも由志園を見ておきたいと思ったのが第一でした。見学させていただき改めて日本庭園の良さを痛感しました。

最後に視察した足立美術館では、亡くなった(寅巳園)の加藤君の弟さんにお世話になり、加藤君が作庭した植栽を見たのもいい思い出となりました。



クルメツツジ



サツキ



ヒラドツツジ



上野恭一さん 上野万生園 (福岡県)

令和8年春の叙勲 上野恭一さん (上野万生園・福岡県) が、 旭日単光章を受章

この度、春の叙勲において旭日単光章という身に余る栄えある賞を賜り大変驚いております。

私は大学(東京農大)を卒業後、家業の植木生産業に就き、色々の種類の樹木を生産してきましたが、特にツツジ類(クルメ、サツキ、ヒラドツツジ)の生産が好きで、「好きこそものの上手なれ」の言葉を motto にやっております。

40歳頃より毎年行われる(一社)福岡県園芸組合連合会主催の緑化樹芸木園場品評会に出品し、ある程度の成績(農林水産大臣賞5回、農林水産省生産局長賞6回他)を収めたのがきっかけで、ご推薦をいただき今回の栄誉を賜りました。

妻と二人三脚で頑張ってきた結果だと思っております。毎日地下足袋を履いて仕事をしている者にとってはこの上ない賞であり、長年の成果のご褒美だと感謝しております。これもひとえに日本植木協会の会員と



新樹種部会

令和8年度部会員向け研修会
「消費地東京の樹木生産地立川から
発信する次世代の植木生産」を開催

山崎 隆雄 (株)ワイズプランツ(埼玉県)

新樹種部会では、6月30日東京都立川市に於いて研修会を開催しました。研修先は、東京都農林総合研究センター、佐野園、瀧島園、ふじの園、(敬称略)です。

東京都農林総合研究センターは、全国の農研機構、都道府県試験場の中で、「植木」の専門研究部署がある



新樹種の中では、イギリスナラで大きな被害がありました。イギリスナラは、コナラなどの在来種よりも優先してカシノナガキクイムシの穿入を受ける可能性が高いことがわかった。圃場見学では、立川市の植木産業は、昭和30年代に本格化し、それまでの全国一の生産量を誇った養蚕桑苗で培った栽培技術が基礎となり、特に立川産のケヤキ、ハナミズキの生産は



アトラスシーダー「グラウカペンデュラ」

質、量ともに日本一とわられています。また、この地特有の短冊状の地割りには、目が良く行き届き、どれも高品質の植木が深く印象に残りました。

業態の多様化と次世代の在り方として、瀧島園では「蔵の花屋 コトハ」を運営しています。江戸時代に建てられたという、間口が横にある珍しいタイプの蔵で、自社生産品の新樹種の切り枝や鉢植え商材は、一般流通にはない樹種・規格で取り揃えられており、多彩なオージープランツも加わって、ダイナミックさと和モダンな空間が演出されています。季節感たっぷりのお店づくりに、生産農家直営である強みを感じました。駅ナカの花屋さんでは物足りない方にお勧めです。

近ごろの多種多様化は顕著で、佐野園では里山に多くあるような樹種が圃場に多く見られました。少量多品種で樹形も一定ではなく、個性豊かな商材が豊富に並んでいました。顧客幅の広さゆえのきめ細かい対応とのこと、納得しました。コニファー類の生産も充実しており、それぞれの品質から栽培技術の高さうかがえました。

その佐野園で研修された屋が立ち並ぶ砂川界隈。今と聞くふじの園の栽培管理技術は、目を見張るものがありました。広くとれた植え付け間隔と定期的な剪定管理で、どの角度からもバランスのとれた美しい樹形に見とれてしまいました。何度訪れても勉強になる。定番からマニアック向

黄金のセイヨウトネリコが鮮やかに輝いていました。それぞれ個性豊かな植木



滝島園 (売店)



東京都農林総合研究センター

②オージープランツの生育特性及び耐乾・耐暑・耐寒性の調査
高温・乾燥に耐性のあ



佐野園



ふじの園

副会長
内山 淳
(株)山都屋
〒703-8273
岡山県岡山市
中区門田文化町2-11-51
TEL: 086-272-2161
FAX: 086-272-2142

副会長
黒田 晴彦
(有)美好緑化
〒441-3301
愛知県豊橋市老津町字東高縄154-2
TEL: 0532-23-0835
FAX: 0532-23-1345

会長
生駒 順
生駒植木(株)
〒244-0004
神奈川県横浜市
戸塚区小雀町1805
TEL: 045-851-1805
FAX: 045-852-6068

理事
角田 肇康
(株)角田園
〒490-1312
愛知県稲沢市平和町下三宅174
TEL: 0567-46-0802
FAX: 0567-46-4673

理事
高橋 浩久
高橋園芸
〒190-0002
東京都立川市幸町1-43-4
TEL: 042-848-4702
FAX: 042-536-2656

理事
浅見 和正
(株)浅見園芸
〒336-0961
埼玉県さいたま市
緑区玄蕃新田694-3
TEL: 048-878-4933
FAX: 048-878-1907

理事
大久保 吉広
(有)猿島ガーデン
〒306-0504
茨城県坂東市生子1847-1
TEL: 0280-88-0073
FAX: 0280-88-0697

理事
眞鍋 憲太郎
眞鍋庭園苗畑
〒080-0832
北海道帯広市稲田町東2線6
TEL: 0155-48-2120
FAX: 0155-48-2169

副会長
西郷 純一
西郷農園
〒899-0216
鹿児島県出水市大野原町1890
TEL: 0996-62-0638
FAX: 0996-62-6986

監事
佐久 定規
(有)千代田緑地
〒315-0056
茨城県かすみがうら市
上稲吉1830-3
TEL: 0299-59-2214
FAX: 0299-59-5075

監事
内田 耕一郎
曼珠苑
〒182-0017
東京都調布市深大寺元町3-30-3
TEL: 042-484-3115
FAX: 042-487-4884

理事
古賀 尚樹
愛花夢(株)
〒839-1205
福岡県久留米市
田主丸町船越750-2
TEL: 0943-72-1522
FAX: 0943-72-1534

理事
丹下 貴啓
(株)瀬戸内園芸センター
〒799-1536
愛媛県今治市旦甲248-1
TEL: 0898-48-0010
FAX: 0898-48-8187

理事
小島 幹央
(株)京都芳樹園
〒615-8267
京都府京都市
西京区山田北山田町39
TEL: 075-381-3167
FAX: 075-392-8055

理事
橋本 幸夫
橋貞園芸
〒492-8342
愛知県稲沢市矢合町1407
TEL: 0587-36-2020
FAX: 0587-36-4191



左から三春町長の坂本浩之さん、受賞された仲田茂司さん

このたび私は、日本造園学会賞2025事業・マネージメント部門を受賞いたしました。テレビ東京「世界！ニッポン行きたい人応援団」でも紹介されました。

また、里山に自生する野草を活用した独自の「野の花マット」を開発し、首都圏を中心とした屋上緑化や公共空間の緑化に展開してきました。この取り組みにより、東京農業大学造園大賞（2010年）、日本造園学会賞技術部門（2016年）を受賞しています。

仲田種苗園は1959年の創業以来、「里山の優良な植物を商品化する」という創業者の理念のもと、在来植物を中心とした生産を続けてきました。私は二代目としてその理念を受け継ぎ、地域の自然植生に根ざした植物生産に取り組んでいます。特にモミジの生産の管理を担う人が減り、生



受賞実績

しかし近年、私たちは植物を生産し緑化資材を供給するだけでは、里山の未来を守ることは難しいと感じるようになりました。人口減少や高齢化によって里山の管理を担う人が減り、生

この活動には、大学研究者や博士課程の学生、造園・建築設計者、行政関係者など、多様な人々が参加しています。里山を訪れた参加者は、自然の魅力や地域の課題を学び、それぞれの専門分野へ知見を持ち帰ります。その交流から新たな発想や協働が生まれ、再び里山へ還元される循環が育まれています。

そこで私たちは、里山の植物や人材、知恵を都市の緑化に活かし、その成果を再び里山へ還元する「里山と都市の循環モデル」の構築に取り組みできました。仲田種苗園では里山植物を活用した商品開発や緑化事業を展開し、私が理事長を務めるNPO法人ふくしま風景塾では、里山園芸民泊を拠点として里山ツーリズムや環境教育を実践しています。

私たちがこれからも、植物生産、緑化技術、環境教育、ツーリズムを有機的に結び付けながら、「里山と都市の循環モデル」をさらに発展させていきたいと考えています。そして、里山の恵みを未来へ受け継ぎ、人と自然が共生する持続可能な社会の実現に貢献していきたいと思っています。



今回のスケッチは「ハマナス *Rosa rugosa*」。皆さんご存じの通り、東北地方～北海道の海岸に多く自生するバラ科の落葉低木で、芳香のある鮮やかな紅紫色（ローズピンク）の花が初夏から次々と咲き、海岸を彩ります。枝に無数の棘があるので、注意が必要ですが・・・なぜ、「美しい花には棘がある」と云うのでしょうか。棘が無くて美しい花はたくさんあるのに・・・、不思議ですね。

ところで、「ハマナス」と「ハマナシ」、どちらが正しいか？ 考えたことがありますか？ 東北地方では、「ハマナシ」が訛って「ハマナス」になったのです、と云われて育ちましたが、諸説あるようです。「ハマ」は海岸の「浜」で問題ありませんが、「梨」と「茄子」の花、果実とも、どちらもハマナスとは違うような気がします。そもそも「梨」って。語源を調べてみると、「中白：中身が白い」や「中酢：中身が酸っぱい」などで、「茄子」は「中酢：中身が酸っぱい」や「夏実：夏に実る→なすび」などでした。ハマナスの果実は、梨や茄子というより真っ赤に熟したトマトですよ。実は、トマトの別名（旧名）は、「唐なすび」というそうです。北陸のある地方では、ハマナスのことを「ハマナスビ」と呼ぶそうで・・・。調べているうちに、「ハマナス（浜茄子）」の方がしっくりくるような気がしてきました。

かつて、ハマナス群生地での植生調査で、砂浜の根系を掘ったことがありました。樹高1.0m位のハマナスの根系が3mほど伸ばした先に、黒く焦げた流木をしっかりと掴んでいました。海水をかぶる砂地で、真水と肥料分を求めて根系を精一杯伸ばした結果、たどり着いたのでしょうか。植物の生命力の強さをあらためて思い知らされた貴重な経験で・・・。ハマナスの芳香がとても愛おしく感じられました。

いろいろと書きましたが、植物に対する興味は尽きませんね。だから、楽しいです。

廃材利用の
エコ製品
スギ廃材木粉20%入り

アスコットの緑の名札
ecobase

スギ廃材木粉20%入り
PP+木粉=エコベース

環境意識のアピールに最適！

黒とベージュの
2色展開！

サクラ
「オカメ」
Cerasus 'Okame'
バラ科 サクラ属
カンヒザクラとメザクラ
の交配種で、英国で作
られました。

オリーブ
Olea europaea
モクセイ科 オリーブ属
灰緑色の葉が魅力。
花は芳香があり、実は
漬物やオイルなどに利
用します。

品番：MNE-17B

品番：MNE-17W

表示面デザインは自由

中型 2,570 円 (税込み価格)

※中型サイズ(175×120×10mm)のみの
展開になります。

株式会社アスコット

TEL.045-222-0215

〒231-0027 横浜市中区扇町 2-4-5-201

メール / jumeifuda@ascot-f.co.jp

www.ascot-f.co.jp/

詳しい情報は
こちらから

ホームページ

HP

まだ業者に
任せますか？

自社で簡単に作れます。
価格もお手頃！

HOPWEB!

ホップウェブ

オーセブン株式会社

日本列島植木植物園運営委員会

三重・愛知視察研修会

委員長 清水 洋樹

(株)清水植物園(福井県)

6月23日から24日に、38名の参加者にて視察研修を
実施しました。23日の懇親
会においては中部ブロック
夏季研修参加者20名を加え
総勢58名にて盛大に行い、
参加者間において親交を深
めました。

視察初日は鈴鹿市の協会
員5社園を視察しました。
13時頃から(株)沖植物園さん
の事務所周りは、卸し主
体の社園らしく、流行りの
植木と定番の植木が仮植管
理されており、お庭の体験
展示場「Green & Smile
さんぽ道」(沖植物園さん



(株)沖植物園にて



(有)東勢園にて

15時頃(株)東勢園さん
の出荷場周りを視察しまし
た。事業の説明(今回は視
察できなかったが、売店の
経営や広い面積でのソーラ
ーパネルでの発電などもし
ている)をしていただきま
した。出荷場周りの大きく
立派なウツクシマツが皆さ
んの興味をひいていまし
た。



中島農園(株)にて 圃場に大きな池と水路を作り散水している



東山動植物園にて



(株)千代田農園にて

参加者の感想

(有)櫻井エンタープライズ(島根県) 櫻井 心

島根県でグランドカバープランツの生産販
売をしております(有)櫻井エンタープライズの
櫻井心です。このたび、6月23日から2日間
で行われた日本列島植木植物園研修会に参加
させていただきました。

今回の研修会では、1日目に三重県鈴鹿市
で(株)沖植物園、(有)鶴飼農園、(有)東勢園、上田
緑植園、中島農園(株)を2日目に愛知県にて(株)
千代田農園および東山動植物園を視察させて
いただきました。自分は2日目の東山動植物
園の植栽視察は時間の都合上、参加すること
ができなかったが、各社園の視察ではそ
れぞれの生産者が地域や樹種に合わせた品質
を保つための栽培方法、暑さ対策が行われて
おり、植物の生産を維持するための工夫を学
ぶことができた大変参考になりました。

また、懇親会では中部の方々も参加されて
おり多くの方と知り合うことができ色々な話
を聞かせていただいたので大変勉強になりま
した。委員長の清水さんにお誘いいただき初
めて青年部以外の研修会に参加して今回の研
修会で様々な知恵を教わる事ができました。
そのため、これからもこのような会に参加で
きる機会があれば参加しようと思います。そ
して今回の研修会での経験を活かしていきた
いと思います。

最後になりましたが忙しい中、研修会を計
画してくださった委員会に感謝申し上げます。



(有)鶴飼農園にて



上田緑植園にて

転車を利用して広い圃場を
移動して手入れをする事が
納得できる広さで、植物の
種類で、ないものがないの
ではないかと思うほどでし
た。

19時から懇親会会場にて
懇親会を開催しました。懇
親会では中部ブロックの夏季
研修と合同で開催し冒頭で
書いたように盛大に親交を
深め、21時に終了し2日目
に備えました。

研修会2日目は稲沢(千
代田)方面と東山動植物園
を視察しました。8時にバ
スを出発し、9時頃から(株)
千代田農園さんの事務所周
りと仮植場を視察しまし
た。仮植場では、多くの木
に樹名板が付いており、日
本列島植木園にふさわしい
と感じしていました。その
後、千代田地区の生産者さ
んの圃場を視察後、稲沢か
ら東山動植物園に向けて移
動しました。

11時頃から東山動植物園
にて前植物園長であられた
下総勝義氏に植物園をガイ
ドしていただきました。研
修参加者の皆さんには、特
回の視察研修ではただ見て
に同植物園のナショナルコ
レクションである愛知県の
ツバキの品種コレクション
を通して、日本列島植木植
物園構想で行なっているナ
ショナルプランツコレク
ションへの理解を深めてい
ただきました。その後東山
動植物園を自由に視察して
いただきました。

14時頃名古屋駅に到着し
無事解散となりました。今
回の視察研修ではただ見て
学ぶだけではなく、幅広い
年齢層と一緒に研修したお
かげで諸先輩からは経験を
学び、若者は普段付き合い
のない植木屋さんとの親交
ができ、各年齢層がお互い
に知識と元気をもらえた研
修となりました。

青年部会だより

馬のいる植木家

鶴飼 勇希
(有)鶴飼農園(三重県)

三重県鈴鹿市で植木の生
産、卸をしております、(有)
鶴飼農園の鶴飼勇希と申し
ます。今年度より、青年部
に皆様へ可愛がっていただ
きました。

自分の母方の祖母が乗馬
クラブで勤めていたことが
小学生の頃から馬に乗っ
ており、大学では東京農業
大学の馬術部に所属しなが
ら今では20年以上上馬と関
わっています。馬がいる厩
舎は、事務所裏にある畑へ
長を拝命いたしました。

弊社の1番の特徴として
は、「馬のいる植木農
家」というところになるか
と思います。一昨年度から
大学の馬術部に所属しなが
ら今では20年以上上馬と関
わっています。馬がいる厩
舎は、事務所裏にある畑へ
長を拝命いたしました。



写真2 東京農業大学馬術部への入部に際し、一緒に引っ越していたオッディシイ



写真 1 道草の様子



写真4 材検や作業中も馬が見守る(フィナーロ)



写真3 新しく作った馬場で歩く(リカント)

続く通路沿いにあり、材検
に来ていただいた際は最初
に馬に会っていただいて癒
されてから材検をすること
になり、そこから進めなく
なることも多いくらいで
す。

犬が散歩をするように、
馬も日々の運動が不可欠に
なります。日々の運動の中
では、裏山の畑道を散歩し
たり、畑の草を道草的に食
べたりして、馬にとっても
良い環境になっているので
はないかと思えます。ゆく
ゆくは馬で植木を運んだ
り、馬車で材検が出来たり
したら面白いな...なんてこ
とも考えたりします。

ルポ

シリーズ 社園さん紹介 No.34

松居農園(株)

滋賀県(東近江市)

コロナ禍を転機に「攻め」の経営へ

——ハウスメーカーへの直接営業と

山林苗木生産の再興で切り拓く110年の新たな道
家業のルーツである「桑の苗木」から、時代のニーズを捉えて「庭園樹」、そして「緑化樹卸」へと110年進化を遂げてきた松居農園(株)。現在は40歳で4代目社長に就任した松居隆史さんが、コロナ禍を機にハウスメーカーへ自ら営業をかけ直接取引に。さらに滋賀県で途絶えていた山林苗木の組合を再興するなど、独自の「3本の柱」を確立し、そして家族の絆が織りなす話を伺いました。



少花粉ヒノキ



琴子さんと隆史さん

■第1部：経営者インタビュー

(松居隆史社長・奥様の琴子さん)

桑の苗木から始まった110年の歩み

創業110年と長い歴史ですが、始まりは？
社長の松居隆史さん：家業としては大正5年（1916年）、この地域で「桑の苗木」の販売を始めたのがスタートです。当時はこの周辺も養蚕（ようさん）が盛んで、桑の需要が高かったんですね。その後、庭園樹の仕立て物や盆栽を扱い、「緑化ブーム」の時代は緑化木の卸へと、現在の基盤が出来上がったのです。「売れる方」へ動くことを意識してきた結果です。

コロナ禍で振り切った「ハウスメーカー直契約」の決断

現在の事業体制は、コロナ禍を境に大きく変革されたと伺いました。

隆史さん：はい。現在は大きく分けて「3本の柱」で経営を安定させています。売上の約6割を占めるのが「緑化木の卸」ですが、第2の柱である「造園工事」を強化したのはコロナ禍だった約5年前のことです。建設業全体の落ち込みを見て「造園屋さんに卸すだけでは将来の広がりが難しい」と直感し、ハウスメーカーと直接契約を結ぶ形に振り切りしました。

ハウスメーカーに直接営業に踏み切るのはかなりの勇断だったのでは？

隆史さん：正直、既存の得意先からは反発もありましたが、私たちがハウスメーカーから直接工事を受け、それを普段お世話になっている造園屋さんに発注することで、結果的に「ウィン・ウィン」の関係を築けると考えたのです。

滋賀の緑を守る「山林苗木生産」の再興

第3の柱である「山林苗木の生産」について？

隆史さん：約10年前に、滋賀県内で一度解散して途絶

えていた山林苗の組合を会長（松居隆地さん）が数人の仲間と共に再興して始めました。現在、約6社で構成される組合で、正式に種を譲り受けて生産を行っています。弊社では1haの圃場で主に少花粉スギと少花粉ヒノキの生産をしています。

また、並行して取り組んでいるのが「地域性苗木」の生産です。これは、土地固有の種を採取し、苗に育てて元の場所へ戻すものでして、ダム建設や発電所の法面（のりめん）緑化、企業の生態系保全事業などの際に依頼があります。約30年前に、会長が一から始めました。

「健康第一」を貫く、奥様による柔軟な雇用管理

従業員の方々への環境づくりで大切にされていることは？

奥様の琴子さん：私は事務全般を担当していますが、最も気にするのは従業員の「健康第一」です。農園の仕事は非常に体力を消耗しますから、残業はせず、早めに帰宅して身体を休めることを徹底しています。また、一部の社員はライフスタイルに合わせた「個別契約」にしています。例えば、パート社員には、お子さんの夏休み中は完全お休みにしています。繁忙期はシルバー人材センターに派遣を依頼しています。

また秋には、バンングラデシュから初めて外国人技能実習生を2名迎える予定です。新しい文化を運んでくれることを、社員一同楽しみにしています。

■将来展望：助成金申請で「経営の頭」を整理し、さらなる拡大へ

最後に展望をお聞かせください。

隆史さん：現状に満足することなく、拡大の余地はまだまだあると考えています。卸売りのシェア拡大はもちろんですが、今後は施工後の管理・メンテナンス業務を強化し、より安定した経営基盤を築きたいです。

こうした将来の戦略を練る上で、実は「助成金の申請書」を書く作業が非常に役に立っています。申請には、将来どうしたいのか、なぜこの機械や設備が必要なのかといった記述が大量に求められます。一見大変な作業ですが言語化していくプロセスの中で、自分たちが抱えている課題は何か、どこに投資すべきか。申請書を書くことでそれらが明確になり、経営のサイクルを回す良い機会になっています。

家族を支える「料理男子」の顔と、徹底した生活リズム

仕事では鋭い経営手腕を見せる社長ですが、プライベートでは「料理男子」としての一面もあるとか。

琴子さん：そうなんです。実は夫は、朝4時半に起きて家族全員の朝食を用意してくれるんです。さらに日曜日の夕食も喜んで作ってくれます。

隆史さん：夜8時半には寝る「超・早寝早起き」なので。休みの日は早くから献立を考えて、レシピ通りに、きっちり作るのが好きなんです。

■第2部：従業員インタビュー

ベテランが繋ぐ「地域性苗木」と、異業種から転身した「現場の喜び」

現場を支えるお二人に、それぞれの専門分野でのこだわりを教えてください。

【平塚さん（勤続約30年・生産担当）】

私は山林苗木や地域性苗木の生産を専門に担当しています。大学時代はバイオ関係の研究をしており、「実



後列左から富士原さん、平塚さん、枝連さん、馬場さん、藤岡さん
前列左から塚本さん、塚本さん、岩佐さん、社長の松居隆史さん、奥様の琴子さん

際に自分の手で木を育てたい」という思いを持って入社しました。30年間で特に心に残っているのは、滋賀県の竹生島（ちくぶしま）の緑を復元するプロジェクトです。カワウの被害で荒れてしまった島を再生させるため、現地の種を採取し、苗に育てて再び島へ戻す仕事に携わりました。他にも原発やダムの現場など、特定の土地固有の種から苗を作る仕事は、非常に緻密な技術と経験が求められます。自分が育てた苗が山へ帰っていく姿を見ることが、何よりのやりがいです。

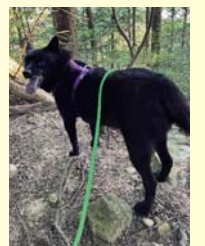
次に、入社2年目の富士原さんは、異業種からの転職だそうですね。

【富士原さん（入社2年目・工事担当）】

私は25年間、福祉関係の事務職をしていましたが、心機一転してこの業界に飛び込みました。外で身体を動かし植物と向き合う毎日は全くストレスを感じません。現在は主にハウスメーカーの植栽工事を担当しており、この仕事の難しさは図面を基に施工するのですが木の「向き」や剪定の「センス」ひとつでずいぶん仕上がりの雰囲気が変わるところにあります。日々勉強中ですが、一見無造作な配置にも奥深さを感じています。

■休日のリフレッシュ方法や趣味は？

富士原さん：趣味はバイクと、愛犬の「カイ君」とのお出かけです。カイ君は珍しい「甲斐犬（かいけん）」という日本犬で、車に乗せて車中泊に一緒に出かけたりするのが一番の楽しみです。珍しい犬種なので人が寄ってくることも多いです（笑）。



カイ君（甲斐犬）

■第3部：次世代インタビューコーナー

松居家の元気な姉妹にもお話を伺いました。好きな木や将来の夢を教えてください。

【長女・優しい千尋（ちひろ）ちゃん（小学6年生）】

好きな木は「サルスベリ」です。あの幹のツルツルした感じが好きです。ずっと前に絵が好きだから会社の求人募集ポスターを描いたこともあるんです。将来の夢は、絵本作家になりたいです。お父さんとお母さんはいつも忙しそうだけど、頑張ってるみたいです。

【次女・元気のいい実（み）ちゃん（小学2年生）】

私は「アオダモ」が好き！アオダモの木に登るのが（…お子さんの口からアオダモが出るとは（笑））。

お父さんと一緒にお花に水やりをしてるの。大きくなったら水をあげる植木屋さんになる！（…将来が楽しみです）



4年前に描いた千尋ちゃんの求人募集ポスター



実ちゃんのお手伝いと、得意なアオダモの木登り



Zoomインタビュー風景
左から実ちゃん、琴子さん、千尋ちゃん



シリーズ 女性樹木医 奮闘⑤

木を好きになる体験を育てる

樹木医 水上 紗智子



樹木医をしていると、倒木や落枝を心配する声を多く聞きます。少しでも危険な木があると切った方がいい。危険の原因になる木は最初から植えない方がいいのではないかな。そういった声も耳にします。一方で、もっと緑を増やそう、残していこうという声もあります。

そういった方々は、やはり緑が好きな方です。そして、その気持ちの原点には、幼少期の自然体験があるように感じています。子供のころにした自然遊び、ふと見上げた木漏れ日、樹木ってすごいという発見。その一つ一つが、大人になってからの「木を植えたい」「育てたい」「守りたい」という気持ちにつながっているのだと思います。

私は学校で樹木の授業も行っています。子供たちと同じ目線に立ち、葉の香り、幹の手触りの違いなど、五感を使って樹木を感じる体験を取り入れながら、樹木管理の必要性や樹木の大切さについて一緒に考えています。

今の時代、手が汚れることや怪我を気にして、最初は消極的な子供もいます。しかし、時間が経つにつれて夢中になっている姿を見せてくれます。子供自身というより、大人の価値観を投影している部分もあるのかもしれませんが。授業の最後には、「今日の体験をぜひうちのの人に話してください」と伝えるようにしています。子供が目を輝かせながら話す言葉は、大人の価値観を動かす力があると思うからです。



樹木が好きなる人を増やすことは、直接的な売り上げにつながるわけではなく、とても地味な取り組みかもしれませんが、しかし、緑を増やし守っていくためには、とても大切なことだと感じています。樹木も最初は小さな種から育ちます。幼少期に「木ってすごいな」「楽しいな」「落ち着くな」「大事だな」と感じる小さな種を心に植えておくことで、その気持ちは大人になってから大きく育っていくのではないのでしょうか。

学校での活動のほかにも、市民講座も行っています。内容は樹木の生態や管理についてですが、参加される方は皆さん、樹木に関する悩みを抱えています。講義よりも質問の時間の方が盛り上がることも多く、休憩中にはご自身の庭木の写真を持参して相談される方ばかりです。

「緑が好きで植えたけれど、その後どうしていいかわからない」そう感じている方はとても多いです。木の管理方法が分かると、植えることをためらっていた方が一歩踏み出せると思いますし、樹木は手をかけた分だけ応えてくれます。樹木について理解を深めることは、「緑が好き」という気持ちを行動に移すきっかけにもなると思います。その背中をそっと押せることを、私自身うれしく感じています。

大人も子供も、木を好きになる体験を増やしていくことが、未来の緑を支える土台になると感じています。



学校紹介

未来の業界を担う若者たち

福島県立相馬農業高等学校

福島県立相馬農業高等学校は、明治三十六年に組合立原町実業補習学校として始まりました。その歴史は古く、今年で123年目を迎える歴史のある農業高校です。本校生徒は、現在237名が在籍し、農業や食に関する知識だけでなく、技術を身に付けるために日々学んでいます。本校は、造園植物の生産と自然環境の保全、土木施工の知識・技術について学ぶ環境緑地科と作物の栽培や家畜の飼育に関する知識と技術、最先端の農業について学ぶ生産環境科、食品製造及び流通活動に関する知識・技術を学ぶ食品科学科の3学科で構成されています。その中でも環境緑地科では、校内外での緑化活動に力を入れて学習をしています。

環境緑地科では、造園部門と測量部門の2部門に分かれます。主に造園部門では、校内の樹木の植栽や剪定などの植栽管理を行っています。四季折々の植栽管理が続いています。学校周辺の美化活動も行っています。技術の向上だけでなく、生命のサイクルを学ぶ貴重な機会です。また、「維持」するだけでなく、新たな緑化空間の「創造」にも力を入れています。建物周辺にパンジー・チューリップなどの花壇造成や、オーブンスペースでの移動式花壇の制作・設置など、生活空間に潤いを与える提案を続けています。学校周辺の美化活動では、1年生を中心にチューリップやサルビア、マリーゴールドを植え付け、美しい「フラワロード」を造成し、いろいろな学校を創造しています。



南相馬インターチェンジ植栽



植樹祭

本校では、地域との繋がりも多く、地域と連携した事業も年間を通して行っています。毎年5月には、南相馬インターチェンジの植栽活動をNEXCO東日本と協力して行い、約40メートルの花壇を造成しています。5月下旬には、国の指定重要無形民俗文化財である相馬野馬追のために多くの観光客が南相馬市を訪れるため、正月飾りとして校舎に飾る大きな門松を生徒が作製し飾っています。参加した方々からは、「また来年もよろしく願いします」という声を多く頂き、生徒たちへの自信にも繋がっています。



中学生の体験学習(刈り込み)

また、環境緑地科の学習だけでなく、南相馬市主催の南相馬市鎮魂復興市民植樹祭に、多くの生徒が毎年参加しています。東日本大震災で犠牲になった人々を慰霊し、震災を後世に継承するだけでなく、命を守る海岸防災林「鎮魂の森」を育てる取り組みに参加しています。鎮魂の祈りを込めながら、一本一本の苗木を植えていく作業は、土木や

緑化を学ぶ生徒にとって、単なる実習以上の意味を持ちます。「鎮魂の森」を育てることは、未来の災害から地域を守る盾を作ることです。震災を経験した、あるいは震災後に生まれた生徒たちが、自らの手で防災林を築いていく。この活動こそが、真の意味での「環境緑地」の教育であると確信しています。



学校開放講座 ミニ門松づくり

気候変動や生物多様性の保全といった地球規模の課題に対し、南相馬の地から何ができるか。生徒たちが卒業後、それぞれの場所で「緑の技術者」として、あるいは「良き社会人」として南相馬に根を張り、花を咲かせることが私たちの目標です。これからも相馬農業高校は、地域と共に歩み、緑豊かな相双地区の未来を切り拓く先駆者であり続けたいと思います。



日本列島植木植物園

ナショナルプランツ コレクション*

問い合わせ 高津進一 高敬植木園（愛知県） ☎0563-54-5353

ユッカ・リネアリフォリア

Yucca linearifolia

ユッカ・リネアリフォリア (*Yucca linearifolia*) は、細い葉が放射状に広がる繊細なシルエットが特徴のメキシコ原産の希少なユッカです。

成長が著しく遅いため、葉先が1.0mになるのに7、8年かかります。

マイナス15℃程度の強い耐寒性を持ち、ドライガーデンのシンボルツリーとして非常に人気があります。

幅や高さが大きくなりにくいので、狭い場所でも植えることができます。



※ナショナルプランツ コレクションとは、世界的に価値のある植物の種・品種等を属のレベルで集め、植物の多様性の維持や希少種・絶滅危惧種の保護に役立てる事を目的としたコレクションです。

植物の多様性と人間生活

第3回 バナナの話(1)

東海大学名誉教授 長野克也



◆プロフィール
東海大学名誉教授（農学博士）。これまで、ヒノキ科樹木の細胞遺伝学的研究、地域生物資源の有効活用に関する研究および東南アジアの有用資源探査を実施。特に生垣の多面的な機能の研究やその普及に関して社会貢献賞を受賞。植物種子の遺伝子拡散について多くの知見を持ち、国内外の種子標本約3000種を保有。

東南アジアの市場を歩いていると女性の指という名の細長いバナナ（写真1）、ずんぐりと丸いもの、熟すと皮が赤くなるもの（写真2）など、たくさんのバナナに出会います。タイ、ラオス、ベトナム、マレーシアそして台湾、それぞれの国で違った形や色、その食べ方や利用法などバナナの多様な姿に驚かされます（写真3）。

実はバナナは近縁種まで含めるとインド、東南アジア、アフリカの熱帯地方に広く分布しております。アフリカにはエンセーテ（偽バナナ）が自生しており、茎から採れる澱粉は重要な主食となっています。さらに、温帯の芭蕉、熱帯の野生種や観賞用の品種も含めると1,000品種以上存在するともいわれております。

ところが、日本に住んでいる私たちはバナナに多くの種類が存在することを意識することはありません。日本で食べるバナナの味や香りはほとんど同じで、熟度の違いで少し味の違いを感じる程度です。

今回はバナナと人間とのかかわり方を中心にお話しします。

・「人類とバナナの出会い」

野生のバナナにはアズキほどの大きさの種子がびっしり入っており、日常的な食用には不向きです。例えば我々が子供のときにアケビやムベを食べるようにおやつ感覚で食べていた可能性はあると思います（写真4）。

ところが5,000～10,000年前頃の東南アジアにおいて偶然発見された種無し（無籽）の個体によって現代まで続く人類とバナナとの深い関係が始まりました。もちろん、前述しましたように種無し（無籽）のバナナは株分けなどによるクローン増殖です。東南アジアで始まったバナナ栽培はインドに伝わり、その後ヨーロッパ、アフリカ、アメリカ大陸へと伝わっていきます。

・「食卓からバナナが消える日」

世界に流通するバナナは種無しなので、種子繁殖が不可能なことからバナナはクローン増殖となります。クローン作物であるバナナは味や色、形が均一で大量生産に向いています。しかし、すべての個体が同じ遺伝子を持つことから特定の病害虫、病気や気候変動に対する抵抗力が脆弱な場合があります。バナナはそれを証明してしまった果物なのです。

1950年頃に世界的に流通していた品種はグロス・ミッシェルでした。この品種は濃厚で香り良く、高級な果物として広く世界で食べられていました。しかし、パナマで確認されたフザリウム菌によるバナナの病気は瞬間に主要産地であった中南米に広がり、1950年代にグロス・ミッシェルは絶滅し、市場から消滅しました。この病気は最初に確認された場所の名前をとってパナマ病と命名されました。

現在、我々が食べている品種はキャベンディッシュ種であり、パナマ病に抵抗性のあることから1960年代に全世界に導入された品種です。キャベンディッシュ種はバナナの救世主といわれ、我々がいつでもバナナが食べられるのはこの品種が現れたおかげなのです。

ところが、1990年代にキャベンディッシュ種に感染するパナマ病の変異株が東南アジアで発見され、2019年には中南米にも感染が広がり新パナマ病と呼ばれています。もちろん、キャベンディッシュ種もクローン品種ですからこの病気が全世界に広がり、市場から消滅する可能性があります。次世代の子供たちはバナナを食べることができなくなるかもしれません。

今後、植物病理学、育種研究等の進歩により絶滅が回避されることを願っております。

・「バナナの葉は万能素材」

バナナは食用として重要な植物であるばかりでなく、その他の用途として極めて重要な植物です。もしかすると食用以上に重要かもしれません。

東南アジアの市場に行くとバナナの葉は面積が広く加工が容易なことから様々な用途で使われています。例えばテーブルクロスとして（写真5）、大皿として（写真6、7）、食べ物を包むものとして（写真8、9）バナナの葉の多様な用途を見ることができます。



写真1 女性の指に例えられる品種



写真2 皮が赤い品種



写真3 甘くない焼きバナナ



写真4 野生のバナナ

インドやスリランカではバナナの葉を使い捨ての皿として利用します。これには伝染病の広がりを防ぐという重要な意味があります。熱帯地方は高温多湿で常に感染症の伝染の恐怖があります。そこで、このように家屋内においても食器を使いまわさないことは合理的なことなのです。もちろんスプーンなどの食器を使わず、右手だけで食事をするという習慣も伝染の抑制に役立ったのでしょう。バナナの葉に食事を盛って、右手だけ使った食事の様子を見て我々は何か不潔なイメージを持つかもしれませんが、この習慣には深い意味があったのです。おまけに、バナナの葉の表面には強い殺菌作用もあるそうです。

・「バナナの葉の繊維」

バナナの葉の繊維は強く、軽いので世界中で衣類や紙などとして広く利用されています。我が国でも沖縄県の芭蕉布として知られております（写真10）。タイではバナナの繊維とシルクを織り交ぜた布などが開発されています（写真11）。バナナの繊維は亜熱帯の気候に適した素材であることから、伝統的なドレスから日常使いのシャツなどにも応用が可能であり、今後、広範囲な利用が期待されます。

・「バナナと宗教」

タイで毎年開催されるロイクラトン祭りにはバナナの葉で作った灯籠を川に流す風習があります（写真12、13、14）。水の神様への感謝と自らの罪や汚れを洗い流す行事で日本の精霊流しと似た雰囲気があります。タイやラオスではバナナの葉で作った美しい供え物を寺に寄進する風習があります（写真15、16）。このような儀式にもバナナの葉はなくてはならないものとなっています。

・「観賞用のバナナ」

バナナは食料として、繊維として利用されるばかりでなく、観賞用に品種改良された品種も存在します。最後にご紹介したいと思います。写真はひと房に1,000本以上の実をつける千成バナナです。残念ながら食用にはなりません（写真17）。また、美しい花をつける仲間も園芸的に利用されています（写真18）。南アフリカに自生する巨大なストレリチアは世界でここで見られないバナナの近縁種です（写真19、20）。



写真6 大皿にしている



写真7 葉の上にタガメを並べている



写真8 魚が蒸されている



写真9 スイーツも包まれている



写真10 沖縄の芭蕉布



写真11 バナナの繊維で作られたドレス



写真12 灯籠



写真13 灯籠



写真14 灯籠



写真15 供え物



写真16 供え物



写真17 千成バナナ



写真18 赤い花のバナナ



写真19 白い花を咲かせる巨大なストレリチアの仲間（南アフリカ）



写真20 白花の拡大

連載「多肉・珍奇植物」

第19回 個体差の妙味とともにエイジングを賞でる、 玉型多肉ユーフォルビア

東京都市大学環境学部教授 飯 島 健太郎



◆プロフィール

東京都市大学環境学部教授。桐蔭横浜大学工学部専任講師、同医工学部准教授を経て現職。博士(農学)。日本造園学会賞／研究論文部門受賞、東京農業大学造園大賞受賞。著書:『新しい都市緑化・ガーデニング材料／多肉植物』(ソフトサイエンス社)、『サボテン大好き』(講談社)、『多肉植物の名前400がよくわかる図鑑』(主婦と生活社)、『サボテン全書』(監修、グラフィック社)、『多肉植物全書』(監修、グラフィック社)など。

2000種以上が知られるユーフォルビアの仲間は、そのうち500~1000種ほどは多肉植物と考えられている。多肉ユーフォルビアにおいて近年、特に人気上昇しているのは玉型の各種である。玉サボテンとは印象が異なる球形のフォルム、地模様の芸術、ツノを思わせる器官など趣のある個性派ぞろいだ。完成された姿形のみならず、そのゆっくりとした形態形成のプロセスや変化を観賞することこそ醍醐味と言える。

普及品でありつつも根強い人気を維持し続けているのが、ユーフォルビア・オベサ(麒麟玉/*Euphorbia obesa*)である。南アフリカの北ケープ州、グレートカルー盆地に自生する。稜の存在を感じさせないほどの整った球形と露出した地肌の模様(写真1)、そして比較的栽培しやすいこともあって、初心者からコアなマニアまで幅広い趣味層をもつ。本種もビザールプランツ人気に乗じて、改めて着目されてきたことが検索傾向からも推定できる(図1)。そのニーズを受けて大小さまざまなサイズの株が流通している。単頭で生長することが多いが、時に群生する。実生後の幼い頃は整った球形だが、生長すると円錐や円柱形に変化する。こうして生長がすすんだ株は基部から木質化が進むが(写真2)、「オールドタイプ」あるいは「オールドオベサ」と称して、昨今こうしたエイジングを愛好するマニアが登場し、2020年代に急激な検索傾向の上昇が認められる(図2)。大量に実生が行われるようになり、それゆえに個体ごとの微妙な模様の違いを楽しむべく、オベサのみを収集するマニアも存在する。

多肉ユーフォルビアらしいツノをもつ種類を2種類ほど紹介したい。まずは、ユーフォルビア・バリダ(万代/*E. meloformis* ssp. *valida*)である



写真1 ユーフォルビア・オベサ



写真2 オールドオベサ

(写真3)。稜を伴いつつも整った球形をしている。ユーフォルビア・メロフォルミス(貴青玉/*E. meloformis*)の亜種で、基本種よりも直径、高さともに大きく生育し、球体の縞模様も美しい。南アフリカ東ケープ州に自生する。太いツノのような褐色の器官は、花柄が硬化して残ったものであり、これを除去せずに観賞するケースが多い。ユーフォルビア・ステリスピナ(群星冠/*E. stellispina*)は、その種小名が、星(stella)とトゲ(spina)の合成語であるように特徴的な星のようなトゲの形状に由来している。南アフリカのグレート・カルー帯が原産。バリダと同様に花柄が硬化してツノのように褐色の器官が残るが、本種は星型に分岐した細いトゲを散りばめており(写真4)、アンテナのようにも見える。



写真3 ユーフォルビア・バリダ

ユニークな姿で古くから人気があるユーフォルビア・ブプレウリフォリア(鉄甲丸/*E. bupleurifolia*)は、ソテツのミニチュアのような存在である。南アフリカの東ケープ州、クワズールナタール州が原産。頂部に細長い葉を放射状に展開する球体は、全体に黒褐色の凹凸に覆われている。正に鎧のようなテクスチャで渋い風情がある(写真5)。この凹凸は葉が脱落した跡に残る部分であり、その形成過程もソテツと似ている。生長が遅く、球体が大きくなるほど栽培が難しくなる。



写真4 ユーフォルビア・ステリスピナ

最後にドラゴンボールなどと称されているユーフォルビア・スザンナエ(瑠璃晃/*E. susannae*)を紹介したい。南アフリカ西ケープ州の一部の地域、リトルカルーと呼ばれる半砂漠気候の高原に自生する。球型の株は小さいが、続々と仔吹きして群生する。本種は12~16の稜からなるとされつつも、その稜から多数の柔らかいノギが生じていて、全体としてはドリアン(瑠璃晃)のミニチュアのような姿をしている。太く硬めのノギから細めで密なノギまで個体差があるのが面白い(写真6)。



写真5 ユーフォルビア・ブプレウリフォリア

玉型・多肉ユーフォルビアは、サボテンのようなトゲに覆われていないことから、整然とした真球・扁球・長球がその姿を露わにしつつも、秩序正しい稜の並び、規則的な地模様をまとい、一見するとこれは植物なのか、突然動き出すのではないかと思ってしまうほど不思議な姿を呈している。多肉ユーフォルビアの中では小型であり、生長の遅い種類が多いため従前からマニアに愛好されてきた。人気であるがゆえに自生地での盗掘がしばしば問題になるものの、国内外の生産農家やセミプロによる実生苗が断続的に流通することによってそれまでより自生地が保全される作用も認められる。地の果てとも形容されるような厳しい地域の岩場や地べたに身をひそめるように適応してきた各種の生態に思いを致し、栽培品から得られた種子をもとに増殖して愛好することをあらためて推進したい。



写真6 ユーフォルビア・スザンナエ

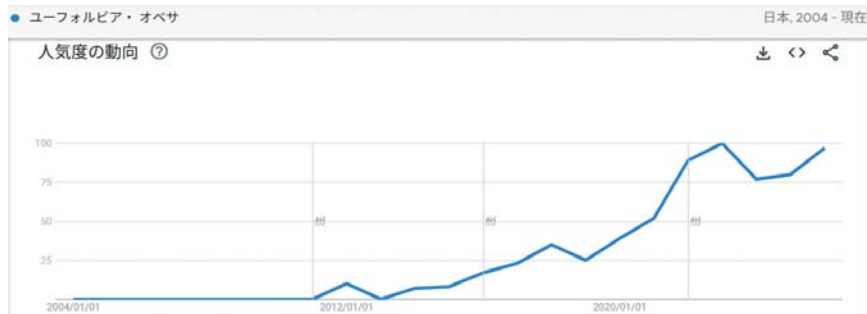


図1 Google Trends 機能による「ユーフォルビア・オベサ」の検索傾向

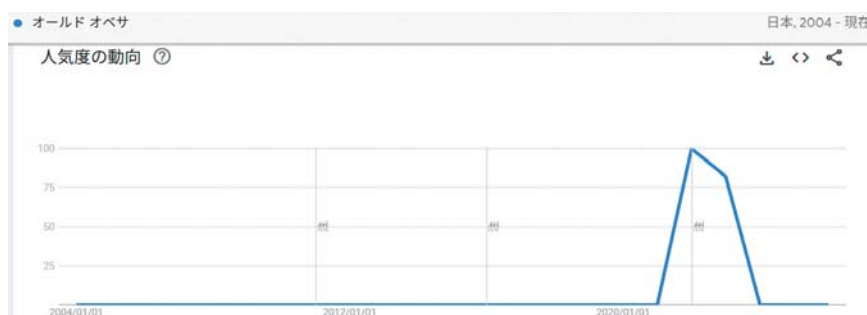


図2 Google Trends 機能による「オールド オベサ」の検索傾向



協会カレンダー委員会が、写真撮影や解説等、制作に1年間手掛けたオリジナルカレンダーです。飾りやすいA4判です。カレンダーの内容が一部変更される場合もあります。
会員価格: 600円(税別) 一般価格: 700円(税別)
1部(最少ロット10部、送料別途)
申込締切日: 9月16日(水)まで 申し込み用紙を同封しています。

協会オリジナルカレンダー販売

令和9年度 協会総会

令和9年1月26日(火)
名古屋ガーデンパレス(愛知県)

令和9年度 コンテナ部会総会

令和9年1月27日(水)
名古屋ガーデンパレス(愛知県)

令和9年度 青年部会総会

令和9年2月10日(水)
日本青年館ホテル(東京都)

会員動向

代表者変更

▷奈良県花き植木農業協同組合(奈良県)
(新) 吉川 隆憲 (旧) 松田登貴也
退会
▷加藤花園植物場(埼玉県)

▷上田緑植園(三重県)
▷(有)半田植物園(香川県)

訃報

▷中島 清昭 様
(中島宏明氏のご尊父様)
中島農園(株)(兵庫県)
令和8年7月30日没 享年84歳